

# 金澤北ロータリークラブ

## 1992年4月2日 第460号

例会日：木曜日 12:30～13:30  
 例会場：金沢市東山1-38-30・松魚亭  
 TEL<0762>52-2271 FAX52-2273  
 事務局：金沢市尾山町9-13・金沢商工会議所  
 TEL<0762>22-2525 FAX24-2882  
 会長：中村 三次 幹事：木村 丹二  
 情報委員長：長谷川 壘人 会員87名

## 日本の信仰

金沢神社宮司 宮川 正見氏



私は曜日に関係なく毎日4時に起床し、神前に米・御神酒・塩・水を捧げ、お祈りをして後3回は境内の清掃を行っております。一般の方々には存じぬことかもしれません。

元々日本には多くの神様があり、我々の祖先でもありますが、総氏神様が天照大神であります。約1300年前に古事記が著わされました。それまで神話は、語り部達により伝承されて来ましたが、この文献を私はとても大切な書物と考えております。「天照大神」を正しく読めない若い人や「天孫降臨」についても知らない人が多くなって来つつあることは残念なことです。

キリスト教やイスラム教は、中東の気候風土が極めて厳しい所で誕生しました。経典・戒律・教祖は絶対的なもので、それなくして、その民族の統一存続はあり得なかったでしょう。

それに比べ日本は、山紫水明に恵まれ、絶対唯一の神を必要とせずとも、自然にはぐくまれ生活をする事が出来ました。故に日本では神に対し、お願いをするより感謝の方に重さがおかれまして。

山や川、又風や雷に至るまで、神の対象として来まして。七福神は実は外国の神様ですが、日本ではそれらも同化して受け入れる大らかさがあるのです。

当神社では月次祭として1日は白蛇さん（災難除の神）、15日は稲荷さん（商売繁盛の神）、25日は天神さん（学問の神）の祈願を行っております。白蛇さんは竜神信仰に基づくもので、脱皮を繰り返しては成長する姿、強い生命力——蛇がその対象になっております。縄文土器の模様は縄でなく、ヘビの姿と私には映ります。

世界各国に於て、歴史に添った神話・宗教は必ずあったはずですが、しかし、民族が民族を征服する戦の繰り返して、どの国にも営々と現在まで伝承されているものはありません。ユダヤ人は持っているようですが、国を失っております。

唯一例外は日本であります。ここが大切なところではありますが、万世一系の天皇を日本の象徴とすることにより、国家の尊厳が維持され、神々のご加護のお陰と思わざるを得ません。

本年は金沢神社にとり、鎮座200年の記念すべき年となりました。道真公に肖り、学業成就で賑うシーズンでもあります。乱世に信仰が盛んになったことは歴史が語っておりますが、神道の精神を広く伝えることが、私の使命と努力をしている毎日であります。

—金沢北RC例会講話より—（文責 桜井健太郎）

## 私の名刺

炭谷 亮一



このたび、金沢北ロータリークラブに入会させて頂き、非常に光栄に思っています。入会させて頂いた以上は、幹部会員の皆様による、新入会員の為のレクチャーの中で、お話し下さった様な、真の意味でのロータリアンに1日でも早くなる様に努力したいと思っています。

さて自己紹介させて頂きますと、私は昭和22年（現在44才）に金沢市石引に生まれました。そしてその地で、約13年前から歯科医院を開業し、現在に至っています。高校卒業後おおよそ、13年間のほとんどを東京で過ごしましたので、開業当初は、東京人のデンタルIQと金沢人のデンタルIQのギャップの大きさに当惑したのですが、最近はギャップも大分小さくなって来たのではないかと、思っています。

家族構成は、妻と3人の子供の5人家族です。趣味としては、主なものは二つあります。

一つは大学時代からやっている、硬式テニスです。カレッジテニスで十分燃焼しましたので、現在はただ単に健康維持の目的で週に二回位、ラケットを握っています。先日中学二年生の長女と試合して、2-6のスコアで敗けた時は本当にショックでした。

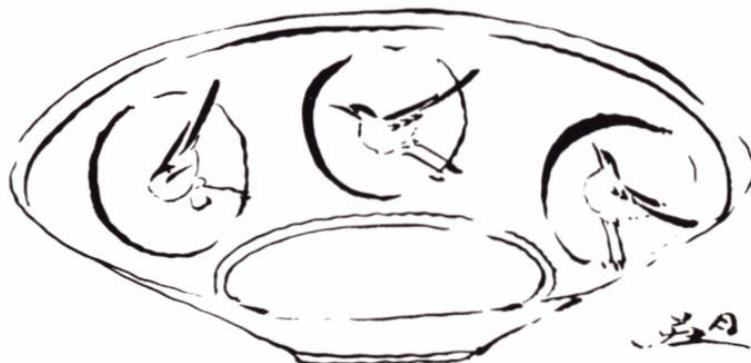
もう一方の趣味は絵画鑑賞です。ここ数年はゴールデンウィークに、アメリカやヨーロッパの美術館巡りをしています。今年もロンドンの大英博物館、ナショナルギャラリー、テートギャラリー、アムステルダムのゴッホ美術館、国立美術館等に行くつもりです。

あと有名な大美術館で行ってないのは、ロシアのエルミタージュとスペインのプラド美術館だけとなりました。この二大美術館も、ここ2~3年の内に行きたいと思っています。世界的に有名な大美術館へ行くと、収蔵品の量と質に驚嘆させられます。その上、入館料の安さにも驚きます。（中にはワシントンDCのナショナルギャラリーの様に、入館料が無料の所まであります。）

世間一般では、日本の国は経済的には豊かになり、GNPにおいては経済大国であると思われていますが、文化面においては、中小国ではないかと言う気がしてなりません。

日本国内の美術館の中で、本当に入館料を徴収するに値する、美術館はほとんど無いのではないかと思います。本来なら入館料は無料にし、その上入館者には、お茶のサービス位いしなくてはならないのではないかと思います。（多少ジョークです。）

最後に、私の保証人になって下さった、飯野先生は大学の先輩であり、恩師であり、御仲人です。もう一人の保証人の合田先生は、先生が主宰されています、青山会の私は一会員です。両先生には、私の保証人になって頂き、この誌面をお借りいたしまして、厚く御礼申し上げます。私自身、当会の会員としての品位を汚さぬ様、精進する所存であります。会員の皆様方、御指導、御鞭撻の程よろしくお願いいたします。



長谷川壺人会員画

## Intercity Meeting(都市連合会)に参加して

渡邊 聡

1991～92年度、石川第一、第二分区の「I.M」が平成4年3月1日（日曜）加賀市文化会館に於いて開催されました。（ホストクラブ＝加賀ロータリークラブ）

今回は「活力…常識・語り合い」が全体テーマとして出された外に、

＊第一分科会（新会員部会）

- (1) 今年度の R.I テーマ「自分を越えた眼を」の真意をみつけ、ロータリーの奉仕を考えよう。
- (2) 新会員に本音を聞く。

＊第二分科会（職業奉仕部会）

- (1) 職業奉仕とは何か、奉仕活動は如何にあるべきか。

＊第三分科会（社会奉仕部会）

- (1) 地域社会のニーズの賢察と、それに対応する活動の活性化。
- (2) 地球環境の保全。

＊第四分科会（国際奉仕部会）

- (1) 研究グループ交換 (G.S.E) の復活と発展および、その意義。
- (2) ロータリー財団の理解と協力。

以上の様な分科会毎のテーマが出され、各分科会ともに熱の入った討議がなされ非常に有意義な勉強会となりました。

なかでも(1) I.M. の開催方法の改革と、来年度の I.M の開催を、第一分区と第二分区に分けて別々に開催することを検討、(2)結論が無く、理論だけで終わる職業奉仕の難しさ、(3)地球環境保全で小松東 RC が、南米コロンビアで熱帯雨林を護る為に、500万円を投じて土地を購入した熱意と行動力、(4) G.S.E の復活に依り、6週間にわたるイギリスのロータリー体験談などの興味深い話や討議など、今回のテーマに相応いものでした。

I.M 終了後、ある先輩ロータリアンの感想として『最近のロータリーは変わった。今の人達は、はっきり物を言うようになった。昔はガバナーやカウンセラーに物が言えなんだもんや』と感心しておられた。

1988～89年度「ロータリーに活力を」、1989～90年度「ロータリーを楽しもう」の R.I. 会長テーマが、息づいているように思えた。

I.M に参加して何時も感ずることは、なぜ出席義務者だけなのだろうか？と思う。入会時にロータリーは人を創る処と教えられた。多くの人の考えや意見を聞き、学ぶには I.M. はまたとない良い機会と思う。今後は多くの会員に参加を呼びかけて都合の許すかぎり、共に参加して、ともに学べる様に心がけたい。



